

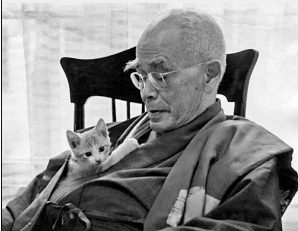
禅とその文化

Overview

- 禅とは何か
- 栄西と臨済禅
- 道元と曹洞禅
- 室町時代の禅文化
- [参考] 京都の仏教系大学と宗派

禅 (Zen) とは何か

- 禅は国際的にもっとも知られている日本宗教
- 鈴木大拙 (1870-1966) による海外への紹介



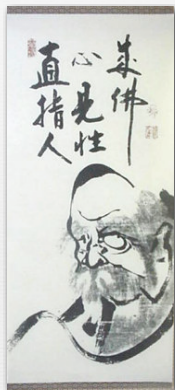
『禅と日本文化』 (岩波新書)
『日本の霊性』 (岩波文庫)
『禅とは何か』 (角川文庫)

禅の歴史

- 禅はインドに古くからある修行法で、のちに仏教に取り入れられた。
- 達磨 (Bodhidharma, 5世紀後半から6世紀前半)
 - 中国禅の開祖。日本のダルマの起源。
- 中国禅は唐 (618-907) から宋 (960-1279) にかけて発展したが、明 (1368-1644) の時代には衰退していった。



月岡芳年画『達磨図』
(木版画 1887年)



白隠慧鶴 (1685-1768) 筆
『達磨図』



栄西と臨済禅

栄西（1141-1215）

- 比叡山で天台教学と密教を学ぶ。
- 1168年、中国に渡るが、天台山は禅の寺院に変わっており、短期間で帰国。
- 1187年、再び中国に渡り、天台山と天童山で臨済禅を修める（5年間）。
- 帰国後、禅による天台宗の復興を唱えるが、比叡山からは異端として迫害を受ける。朝廷は禅宗を禁止。



- 1199年、幕府に招かれ、鎌倉へ。公家文化に対抗意識を燃やす武士層から歓迎される。
- 1202年、幕府の支援を受けて、京都で建仁寺を創建。延暦寺に属し、天台・密教・禅を兼学する道場であったが、後に純粋な禅の寺院となる。栄西は天台僧として生涯を送る。

臨済禅の特徴

- 臨済禅では、師から与えられた「公案」を解くことで真理を体得する。
 - 例：隻手（せきしゆ）の声（白隠慧鶴）
「隻手声あり、その声を聞け」
- 室町時代には、臨済宗の有力寺院を中心に五山文化が栄える。

道元と曹洞禅

道元（1200-1253）

- 比叡山で天台教学を学び、建仁寺で禅を修めた後、1223年、宋に渡り、曹洞禅を修める（5年間）。
- 禅こそ正しい法であると説いたため、比叡山から迫害される。宇治に逃れる。
- 1243年、越前で土地の寄進を受け、大仏寺（後に永平寺と改称）を開く。



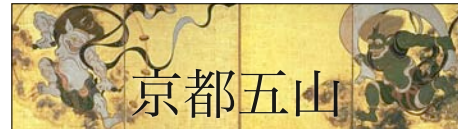
- 曹洞禅では公案を用いずに、ひたすら座禅をする（只管打坐しかんたぎ）。
- 道元は臨済禅をも批判し、禅宗を含め宗派そのものを否定する。普遍的な仏教の探求（新しい宗派を開く意志はなかった）。
- 『正法眼蔵』（しょうぼうげんぞう、Treasure of Knowledge of the True Dharma）を著す。

永平寺



室町時代の禅文化

- 臨済宗は鎌倉幕府の保護を受けて繁栄し、幕府は五山十刹（臨済宗寺院の寺格）を定める。最終的には室町時代になってから、三代将軍・足利義満が鎌倉五山と共に京都五山を定めた（京都五山が格上）。
- 鎌倉五山：建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺



建仁寺
風神雷神屏風
(江戸時代初期)

- 「五山之上」に南禅寺

- 第一に天龍寺
- 第二に相国寺
- 第三に建仁寺
- 第四に東福寺
- 第五に万寿寺



東福寺 通天橋

金閣・銀閣

- 三代将軍・足利義満
 - 北山第（てい）、後の臨済宗鹿苑寺（ろくおんじ）を造る。一階が寝殿造り、二階が武家造り、三階が禅宗仏殿造り。金閣と呼ばれる。
- 八代将軍・足利義政
 - 東山の別荘に観音堂、後の臨済宗慈照寺を造る。銀閣と呼ばれる。
- 金閣寺・銀閣寺は臨済宗相国寺派に属する。相国寺の山外塔頭。



The Golden Pavilion



The Silver Pavilion

五山文化

- 室町時代、京都五山を中心に五山文化が栄える。
- 中国との活発な交流によって支えられる。室町時代には、中国との文化交流は禅僧がほぼ独占していた。
- 五山文化は、禅の思想を文化の様々な領域に浸透させた。
- 茶の湯、生け花、水墨画、能、武道（武士道）

石庭 (rock garden, 枯山水)



龍安寺 (臨済宗 妙心寺派)

[参考] 京都の仏教系大学と宗派

大谷大学	浄土真宗
龍谷大学	
佛教大学	浄土宗
花園大学	禅宗 (臨済宗)
種智院大学	真言宗
高野山大学 (和歌山)	

これらの大学院に同志社大学（神学研究科）を加えると「京都・宗教系大学院連合」(K-GURS)となる。